

日本国際看護学会第1回スタディツアー-台湾(台北)-報告



日本国際看護学会第1回スタディツアー台湾(台北)が終了しました。参加者の皆様から、有意義なスタディツアーであったと報告いただきました。参加者の皆様が、スタディツアーの学びを日本での看護実践や国際看護教育、看護上の研究課題や国際協力活動に活かしてくださることを期待し、報告いたします。

1. スタディツアー期間：2019年3月3日(日)～3月8日(金) (5泊6日)
2. 参加者：日本国際看護学会員6名・スタディツアーへの引率者日本国際看護学会員1名
3. スケジュール：

月日	予定	研修内容	移動・宿泊
1日目 (2019/3/3)	羽田空港国際線に集合 集合時間：10:00	・研修メンバーアイスブレイク ・研修スケジュールの説明	羽田発(12:15) 松山空港着(15:00) ホテル泊 Orange Hotel Kaifong
2日目 (2019/3/4)	財団法人国際合作発展 基金会視察 午後：観光	・国際保健医療ボランティア参加者との 交流 ・財団法人国際合作発展基金会の概要 ・台北観光(寺院、夜市など)	ホテル宿泊 Orange Hotel Kaifong
3日目 (2019/3/5)	振興醫院視察 Nursing Home 視察	・振興醫院の紹介、看護部の紹介 ・老健介護施設の見学 ・昼休憩(11:30～13:30) ・振興醫院(一般病院、緩和ケア病棟)	ホームステイ(学生4名) Orange Hotel Kaifong (他2名)
4日目 (2019/3/6)	台北医学大学視察	・大学看護学部、大学院概要の説明 ・看護教育の説明 ・大学内、演習室の見学 ・高齢者研究センターの見学	ホームステイ(学生4名) Orange Hotel Kaifong (他2名)
5日目 (2019/3/7)	午前:自由時間 午後： 經國管理暨健康學院	・ホームステイ先からホテルへ移動 ・看護学部を有する大学を視察	ホテル宿泊 Orange Hotel Kaifong
6日目 (2019/3/8)	午前中：観光		松山空港(16:05 発) 羽田空港(19:55 着)

4. スタディツアーに関わる費用：13万円(以下の“2)参加者が個人負担するもの”を除く)

- 1) 参加者が均等負担するもの

参加者、引率者の航空運賃・宿泊代、プログラムに関わる現地移動費、施設見学先への謝礼もしくは土産代、施設との交流のための飲食費および物品(日本文化紹介用の物品等)

- 2) 参加者が個人負担するもの

海外旅行保険、推奨予防接種にかかる費用、個人的な土産代、日本国内移動費、日本国内および現地飲食費および物品(日本文化紹介用の物品等)

5. 参加者のAさんの感想

私は、大学に通う看護学生です。今回のスタディツアーに参加した理由は、台湾と日本との医療や看護における相違点や、それらにはどのような背景があるのかについて知り、自身の視野を広げたいと思ったからです。

スタディツアーは、夜市や故宮などの観光名所はもちろん、NPO、医療施設、看護学部を持つ大学で研修をしました。その中で私が最も印象に残っているのは、看護学部を有する大学（台北医学大学と經國管理暨健康學院）での施設見学や学生との交流です。大学の施設には、仕切りの無い演習室と、壁で一部屋ずつ仕切られている演習室があったのが印象的でした。仕切りの無い演習室は、私が所属する大学の演習室とよく似ていましたが、ナースステーションのスペースがあり、実践に即した動きを体験できるようになっていました。仕切られている部屋には、カメラが取り付けられていて、別室で学生の動きを見ることができるようになっていました。仕切られている部屋の中で、学生が技術の練習や試験を実施する際には、事前に訓練を受けた地域住民が患者役として参加することに驚きました。学生は、地域住民を相手にした技術の練習や試験に緊張するようです。しかし、学生同士で実施する技術の練習や試験よりも、本物の患者に似せた地域住民と関わることで、看護学生は臨場感を育め、技術を習得することへのモチベーションの維持につながると考えました。

BLSの訓練にはIT技術が用いられ、専用の人形に実施している心臓マッサージの深さと速さ、アンビュバックで送る空気の量を画面で確認できるようになっていました。実際に人形を使い自分の技術を映像として確認しながら練習できるのは、適切な技術を獲得するのに効果的だと感じました。台湾では、日本以上にITを看護教育の中に取り入れていることが分かりました。

私は今回のスタディツアーで、台湾においてIT技術が医療や看護の分野でもたくさん応用されている知ることができました。そして、日本においてもITを看護教育に有用的に活用できないかを考える機会となりました。今回のスタディツアーで、自分の視野を広げることができました。また、スタディツアーに参加した他のメンバーとも交流を深め、その後も友好関係が続いています。次回もこのような機会があれば、積極的に参加し、自身の視野を広げていきたいと思えます。

スタディツアー参加者 諾浦麗珊



看護学部の演習室を見学



台北の街を散策

日本国際看護学会第2回スタディツアーは、ただいま企画中です。

スタディツアーに関する最新情報は、[学会ホームページ](#)ならびに[学会員ページ](#)より配信いたします。

日本国際看護学会国際活動委員会